京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年

本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢 月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）

廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人 高木久馬太

印刷人 松久伸一郎

京城西署西小門通（電話六六三）

發行所 京城新報社

●各漁業會社

朝鮮沿海の三大漁業に關しては世人の汎く知る處なるが在朝鮮各漁業會社にては夫れ〳〵朝鮮漁業に關し大改良を加へ國家の富源を作らむものと昨今非常の活動を開始し居れるが最近の調査に依れば內地人、朝鮮人の各漁場に於ける出漁數及收獲高を見るに一ヶ年間に

	船數	人數	漁獲高
內地人	三、八九八	一六、六四四	三、四一八、八五〇
朝鮮人	一三、四一一	六八、五三〇	三、一三九、一〇〇
計	一六、三〇九	八五、一七四	六、五五七、九五〇

にして朝鮮人の出漁船數及び出漁者は遙かに內地人を凌ぎ居れども收獲高に於ては之れと正反對の現象を示し居れり之れ漁具漁船の如何に因るは明らかなるが近來東洋拓殖會社にて移民を奬勵し居れども漁業會社は東拓の奬勵を俟たずして中國四國九州より漁業を目的として來鮮するもの多き昨今是等の志士を總合して各地に移住漁村を經營せんとの計劃中にして朝鮮現在の漁業者は一哩平均十一人なるが之れを內地沿岸の密度に對比すれば今後尙ほ朝鮮沿岸に七十萬人以上の漁民を迎へて十分の餘地あるを以て新設の韓海漁業會社を初め各漁業會社にては移住漁村の經營と同時に饒多なる各種の漁類中特に大魚、鰮、鯖及び石首魚を專問として東西兩沿岸に大雄飛を試むる計劃中なりといふ

●歲晚の海運界

歲晚に於ける下關海運界の景況を聞くに北廻線は荷客共に好況を極め雜貨類の輸送殊に大部を占め居れるが內海航路は年末貨物の輸送大略終了を告げたる如く觀察され比較的閑散なり次で大阪線は歲末切迫せるにも拘はらず野菜類の送貨非常に頻繁にして各船甲板上に靑物を山積するの盛况を呈し居れり臺灣線も往航には石炭類の輸送に從事し復航には砂糖を以て船腹に滿し居れり臨時船の從航するもの數隻あり又朝鮮航路就中仁川線は頗る盤旋を極め社外船の如きさへ

◎新刊紹介

●朝鮮之運輸（廿四號） 本誌は半島に於ける運輸交通に關する唯一の言論機關にして各驛所在地の狀況を詳にする好個の資料にして商業取引に關係する者の見るべきものなり（每月一回廿五日發行朝鮮鐵道運輸聯合會）

●朝鮮貿易月表（十一月號） 內外國産の輸入出品價格を輸入出港別に統計したるものなり（朝鮮總督府）

●第十九回 郵便爲換貯金事業概要本年度郵便爲換、取立、貯金、振替貯金、證券の受拂通信官署の歲入歲出交互振替及振替支拂ひ狀況を示す（郵便貯金局）

●新著『實際敎育之新研究』 著者西山哲治氏は多年敎育學を海外に專攻せし新進氣鋭の敎育家にして本書は著者歸朝後第一の著述なり、著者は眞摯の態度を以て鋭眼よく新敎育の眞相を達觀し巧妙の筆致を以て學理的に且實際的に說述したれば近來活氣に乏しき敎育界を警醒すること勘からざるべしと信ず發行所は東京市神田區小川町敬文館

も往復航共殆んど滿載の盛況なりと

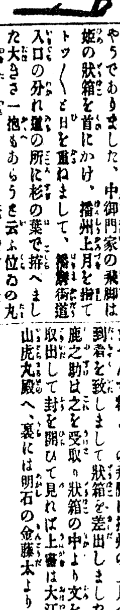
俳句

如月會催 俳合紀念句集（一）

筑前二凉庵宗匠撰（上座拔萃）

山茶花や踏脫石に御免下駄　梧桐
飛そうで飛ばしゐる尾花哉　才涯
貸た灯の行衞見て居る尾花哉　棣芳
落葉から誘はれ落る落葉哉　諸久
飛ぶ鳥も中に交て落葉かな　梧桐
山茶花や傾日のさす小椽先　松雪
畑せゝる彌宜は暇也神無月　子耕
北山の曇り見て掃く落葉哉　講久
立て回す屛風の岩や眠る山　句郎人
落葉して雨騷しき伏牛かな　才涯
落葉して測量臺の高さかな　四樂
山茶花に寄目寒き小庭かな　才涯
見に出れば晴々の雨有翁の日　同
今朝も又茶を賞程の落葉哉　才女
山茶花や笹日の外は開ぬ木戸　天
川筋は風も流るゝ尾花かな　同
鯱の鎧はかたし太刀の魚　才涯
近道を行けは水わる尾花哉　荻水
縣道の三里は近し眠る山　俗佛
山茶花や双紙外は不意に散　梧朗
山茂く落葉の匂ふ日和かな　不得
山眠る下や折り〳〵に辷る風　空山
しるへ山覗けば觸る尾花哉　玉水
不盡に稍化粧の見て眠る山　六甲
秋醋て尾花亂るゝ野邊かな　同
何騷く野邊の鳥や山眠る　春江
山茶花や淋しき影の池寒き　空山
薪割る斧にさしゆる落葉哉　柴庭
夕陽落て山茶花小雨斜なり　漢叟
喇叭さ田舍の馬車や尾花〳〵　空山
群れ鳥眠る外山に戻りけり　同
山茶花に夕日顯るゝ垣根哉　ひさし
据風呂や落葉煙た安旅籠　淡水
人位　山茶花や柴耀に壺た貸屋敷　句郎人
地位　神苑の寂や落葉の掃む音　同
天位　抱き合て眠る妹山脊山かな　ひさし ふくべ

山中鹿之助



追加　何處と根も知ぬ煙か眠る山　蜂月

第四十七回　西尾麟慶演

九右衛門は始め茂作が化物に喰はれて死ぬであらふと思ひましたから、村中の相談を受けて、名主役を茂作が化物を退治たる時は返すと云ふ事を承知致しましたが、遂に山中鹿之助が助太刀して怪物を退治て歸りましたから考へが違ひましたが、一旦承知を致したるとは仕方がありません、遂々名主の株と田地を悉く茂作に返してしまひました、夫より鹿之助は彼の茂作の力量剛膽中々得難きものなりと思ひ、遂に之を自分の家來にいたし、主從の約束をいたしました、是即ち秋宅庵之助と云ふ尼子十勇士の一人で御座ひます、

鹿之助諸國遊歷致しまして、ハヤ四ヶ年も夢の間に過ぎまして、一度雲州富田の城へ立歸りました、尼子義久も大に喜び、其途中に於てありし事どもを相尋ねまする、鹿之助一々之を物語りますると義久感じ且つ喜びました、玆に於て鹿之助は上月城に城を預けましたので上月へ引移り、其處で豫て國々に於て誓ひたる勇士の面々來るを相待つと云ふ事になり、就ては都中御門中納言敎之卿へ此由を知らせますると敎之卿の御滿足九重姫のお喜び此上もなき次第で御座ひまする、鹿之助今年二十歲となり、九重姫は十九歲となられましたので御座ひます、此の若ひ者が四ヶ年の間相別れまして、間ひつ答へつの話もなく日を暮して居りまする處へ此の知らせがありまして見れば九重姫は鹿之助を慕ひ給ふも御尤もで御座ひます、ソコで文てまく〳〵と認めになり之を播州上月へ送る、只今なら郵便で三錢の切手を貼れば日本國中、朝鮮臺灣までも參りますが、其頃は使の者に狀箱を持して遣りましたもの、其狀箱は大抵同じやうであります、中御門家の飛脚は姫の狀箱を首にかけ、播州上月を指てトツ〳〵と日を重ねまして、播磨街道入口の分れ道の所に杉の葉で拵へました大きさ一抱もあらうと云ふ位の丸が軒先に吊してある、是は酒屋の印しで御座ひます、酒の好なものは是へ寄て飲みます、中御門家の飛脚も酒が嗜であります、此酒家へ這入り、一合位のも這入りさうな器で肴と云つては別にないが、椽臺に腰をかけて之を飲み始める、咽喉を鳴らして 飛「アヽ、例もながら良い酒だ」と云ふ傍らを見ると是も同じ飛脚体の男 男「ヤア之は御苦勞樣で 飛「お互ひ樣で、天氣の都合が好くて宜ふ御座ひますが、貴下は何方へ ○「私は是から播州上月へ 飛「アヽ左うで御座ひますか、私は丹波の奥へ參ります ○「夫は〳〵彼方は山路で御座ひますから道も中々大變ですな、併し川止がなくて宜しいが ○「左うでも御座ひません、時折谷川に水が增して橋なぞが落ちます、併し長いことはありません、直引て了ひます」と種々話をしながら飲ましたが、酒は相手があつて飲むと面白いものだから二盃三盃と重なるに從つて、知らず〳〵醉が出て參りました、其處で暑ひ日中を往ふより夕方になつて出掛け涼しくなつて少し急ぎさへすれば、取り返しがつく、一睡入りやッつけやう」と兩人の飛脚は眠氣がさしましたものと見へて、其處へ狀箱を投り出してコロリと寢てしまひましたが、殆んど日の入合と思ふ時分に目がさめて ○「ヤア是はしたり大分遲くなつた △「ヤア手前も遲くなつた」と兩人ながら目を覺して慌てゝ狀箱を首へかけて了ひました、此時兩人狀箱が違つたのを知りませんで都よりの飛脚は播州の上月へ到着を致しまして狀箱を差出しました 鹿之助は之を受取り狀箱の中より文を取出して封を開ひて見れば上書は大江山虎丸殿へ、裏には明石の金藤太より」としてあります、暫く首を捻つて考へましたが合點ゆかぬと思ひながらも讀下しまするに、都にて貢ひ取た物は都では賣捌がつかぬ、依て當地で取たものは其地、送るから宜しく頼む、且つ此地で取つたものは此の地で賣捌から其地へ送れ近日に明石の海濱を見物ながら出て來いと云ふ文意であります。

明治四十三年を送るの辭

光陰矢の如しと云ふが明治四十三年は今や掉尾の活躍を試みて將に逝かんとして居る、顧れば感慨深き事ばかりである、何は扱て措き今や我眼前に彷彿たるは即ち半島併合の事實である、實に空前絶後昭代の盛事であつた、是に伴ひて起りたる現象も亦少からぬ、[illegible]今逝かんとする此の歳を送るに當り余輩の感想を少しく回想して見やう。

[illegible]

四十三年に於ける統監政治は短かかつた、併し半島諸般の經營が漸く緒に付いたといふ丈で、四十三年は以て誇りとするに足る。

嗚呼爾明治四十三年、光榮ある爾を送迎する世人の感想には多大の軒輊がある、多少の杞憂に迎へられたる四十三年は今燦々たる餘光を曳いて送らるゝのである、日韓の併合、總督の政治、之を現實にしたる爾は日清日露の戰役より保護政治統監政治に至るまでの長夢を一笑に付するであらう。

近く日韓併合の第一年、去らば明治四十三年、余輩は爾が光輝ある史實を殘したることを讃賛して而して今茲に感謝して止まぬ。

王世子拜賀

東京電報（廿一日）

王世子殿下には來る一月一日の新年拜賀式には参内拜賀あらせらるゝ旨御治定相成りたり

▲電話擴張費　電話擴張費二千四百萬圓は明年度より六ヶ年繼續費として支出する事と決定したるが電話需用の現況に鑑み四十五年度割より百五十萬圓を繰上げ明年度額を增加する方針なりと

▲事務總長罷免　日本大博覽會事務總長取扱の農商務省次官押川則吉氏は同取扱を免せらる

▲和田事務長の歸朝　日英博覽會殘務整理の爲め引續き倫敦滯在中の日英博覽會事務長和田彦次郎氏一月七日倫敦解纜の平野丸にて二月二十八日横濱着歸朝の豫定なりと

▲勸業會社發企人會　大日本勸業株式會社發企人會を開催加藤增雄氏座長席に就き營業科目の議定を了し創立委員の選任は加藤增雄、桂次郎兩氏の指名に一任せり

▲水難救濟會　帝國水難救濟會は昨日會長吉井伯理事藤波相良肝付及び其他出席し各地方支部長の下に出納委員を置く件其他重要案件に付き協議したり

鐵道院と石炭

後藤總裁が石炭購買策に比較的好成績を擧げたりしより明年度の購買更約にも同一の筆法を以て臨むに於ては炭界の影響する所尠からずとし此程來當業者は寄々協議をなしつゝあるが或は文珠山炭納入に就て其眞相を暴露すべしと敎圍ける向もありと

▲政友會政務調査會　岡崎、井上、改野各主査、三宅、福井、高野、渡邊、秋岡高橋各理事出席打合會を開けり

▲違憲彈劾案　日韓併合の際緊急勅令を以て財産處分を爲したるを違憲なりとして國民黨は議會に彈劾案を提出する筈なり

▲矢部技師の渡英　矢部大藏省技師は關稅問題說明の任務を帶び來る三十日英國へ出發の筈なり

▲盛京時報記者の奇禍　盛京時報記者中西正樹氏は子ーコート附近に於て馬賊に襲擊され重傷を負ひたり

雜報

●定例長官會議

二十七日午前十一時より總督府會議室に於て定例長官會議を開きたるが列席者は寺内總督山縣政務總監、倉富、石塚、池田、宇佐美、木内の五長官及び明石警務總長小松外事局長、鈴木司稅局長十名にして其附議せし問題は法律取調委員會に

●憲兵採用に就て

朝鮮に於て調査したる朝鮮人の外國歸化法案及び民籍に關する事項にして其他過般商業會議所聯合會に於て建議せし事項等なりといふ

朝鮮に勤務すべき憲兵は從來内地に於て採用し來れる例今朝鮮駐劄憲兵司令官は必要に應じて步、工、騎、砲各科の豫備後備役に在る者より輔科採用することになりたりと云ふ

歲末の金融に就て

天一銀行支配人　遠山熙氏談

歲末金融に就ては大分諸銀行支配人方の話が貴新聞に載つてやうで大抵悉してると思ひますから私に別に之といふ變つた御話もありませんが此の三月は實際金融界は繁忙を極めて居ます之れは日本側も鮮人側も共にさうです日本側とて決して不景氣だとは云へません日本人側の景氣不景氣の理由が果して何に起因し居るのか分りませぬが鮮人側に於ては米、大豆の値の好いこと恩賜金が下つたこと地方人民が合邦の餘慶として安んじてまあ金が使へるといふことにあると思ひますそれですから鮮人の需用品が上海邊から幾ら來ても間に合はぬといふ程で地方から注文が引きも切らぬといふ有樣です鮮人側では近頃米を買占むる爲めに貸出を求むるものが幾らもありますこれは全く考へものだろうと思はれる今日交通機關の整備した時に於ては從前の通り思惑が當りますか堂がそれに日本米の相場は上りませぬから京城は勿論此の附近南韓に於て近時非常に土地が買れましたこれは内地の富豪が買收したので之れで鮮人の懷に這入つた金も尠くありません茲に一つ注意しなければならぬのは合邦以來日本人側にも鮮人側にも此の土地で會社を設立しやうと目論むものが實際多いですが計劃が甚だ事實に遠かつてますキット後になつて仆れるものもあろうし止めるのもありませう之は株主たらんとする人も餘程注意しなければ結局は朝鮮の經濟界に大影響を及ぼすことになるだろうと思ひます。最後に申上げたいのは朝鮮に於ける金利が非常に高いといふ批難の聲もあるやうですが決して高くない經濟の組織が違ひますから當然のことゝ思ひ升來年は春になつたら一般に活氣を呈するだろうと思ひますつまり企業熱勃興に誘引される譯ですが前申しました通り計算と調査に於て欠くる所ある計劃では餘程注意しなければならぬと思ひます云々

漢城銀行支配人　李升鉉氏談

私は朝鮮側に就て申しますが近頃金融多忙を來たした原因は世間でいふ通り

米が上作じやないのです從て値が上るだろうといふ豫想をして買込む爲めに貸付の方が非常に多忙で夫れに田舍の方では經濟思想が違つて來て商賣でも始めやうといふやうに成つて來たからだろうと思ひます、金利の方は凡て五厘斗り引き上げました此の忙しさは四年來のことでして各銀行とも盛況で利益のあることゝ思ひますが私い方でもやつと今月になつて金利を上げたのですから夫れ程でもありません、米は豐作じやありません從て多くの人が田舍へぞし〳〵金を以て行つて米を買つて呉れと云ふ譯ですから田舍の人に多く金が落ちてます云々

民團議員豫選投票

賢明なる我が寺内總督は吾人移住民の集團的幸福を重んじ自治体存續の意味を以て今回民團議員改選の事を發令せらる、此の恩惠ある總督の措置に付いては吾人は衷心より感謝せざる可らざると同時に來らんとする選擧を最も清潔に最も平穩に行ひ一は眞に有力なる良議員を擧げ以て總督政治の下に於ける自治体の發達を計り、他は總督府所任地住民としての面目を發揮し因つて以つて總督の深讖に應ふるところ無からざるべからずと信ず。凡そ議員の選擧をして公明清潔平穩に了らしめんとせば、其の最も排斥せざるべからざるところのものは、所謂自稱候補者の無意義なる運動と开を助くる運動屋の運動となり、嗚呼無意義の運動、之れが發しては宴會政略となり請托政略となり、其最も甚しき者に到つては脅迫若しくは買收政略となる。如斯きは獨り民團の平和を害し、且つ其の面目を傷くるのみに止らずして實に法律及道德上の大罪を犯す。嗚呼本社が民團議員の選擧に關し惡德の行はるるを憂ふるや久矣、故に之が絕滅を期せんとして今回の豫選投票を企つ其理由は大要左の如し

凡そ議員選擧混雜の原因として數ふべきもの多からんも其最大原因たる

や實に候補者の過多なるに存す、候補者徒らに過多にして競爭甚だ劇甚を致す玆に於てか紛亂惡德其結果として行はる何ぞ怪しむを要せん、而らば之が救濟の途は如何、曰く、選擧に先ち與論を以て適任候補者を定め一は以て選擧有權者をして據るところを知らしめ他は以て幾多小野心家をして所謂當選運動の無効なるべきを自覺せしむるにあり。

本社豫選投票の趣旨は右の如し、江湖の諸君冀くば本社の微意を諒し左の規定に從ひ投票に御參加あらん事を。

民團議員豫選投票規定

一、京城民團民會議員適任者と認むる者三十名を有資格者中より選出する事

一、投票用紙は本新報に刷込ある用紙に限る事　但し投票人は無記名とす

一、一枚の用紙に認むべき議員適任者の數は五人以内たるべき事

一、投票は本社前の投票箱に投入の事尤も郵送の分は京城新報社内豫選投票掛へ宛らるべし

一、締切は明治四十四年一月二十日とす但し日々に於ける投票の結果は日々の紙上に於て公にすべし

一、總開票は締切の當日若しくは翌日とす但し其結果は本紙上に公にすべし

一、總開票立會人は追つて決定の上發表すべし

右以外必要の事は追次本紙上に廣告すべし

それ〳〵成案を描かれたるよしなるが右に付き既報の如く本日道廳内に會議を開き道長官、大庭府尹、中大路、櫻井兩部長各掛り主任等列席し其成案に付き各自意見を開申審議する所あり

●京畿道廳舍移轉

京畿道廳、同警務部、京城憲兵隊本部は來廿九、卅の兩日を以て元内務部構内の新築廳舍に移轉すと云ふ

●團債認可と民會

當民團が舊債整理の爲め東洋拓殖會社より借入るべき團債は廿四日附總督府の認可となりたるに就ては直に民會を開き舊債償却の更正豫算を提出し其決議を經て再び是れが總督府の認可を仰がざるべからざれど時や歲晩に際し且つ二十八日は御用納の事なれば到底其手續を取運ぶ能はざれば不得已、明年一月に延期し十四五日頃民會招集の事となるべしと云ふ

一京畿道廳會議

京畿道に於ける恩賜公債利金の使途に就ては敎育救恤の二方面は姑らく置き授產事業に關しては養蠶獎勵と一定したるやに聞くが僞・報道せし所なるが开は各地方を通じて養蠶を獎勵するに決定したる次第にあらず土地、風習の干係上より養蠶の不可なる處もあれば這は土地、風習に適應すべき產業を與へ又敎育事業に於ても各地方劃一の方針を取る能はざるの事情もあり斯點に就ては過日道長官親しく巡視の結果として

●鐵嶺のフスマ輸出

鐵嶺製粉株式會社にては從來より鐵嶺の內地輸出を行ひ來りしが其の成績頗る良好にて即ち內地製粉業者が近年漸次業務縮小の結果は自然其の値段を糶上げ需用者側の氣受太だ面白からざる矢先き

日々百斤一袋もの六千袋內外の製造力ある鐵嶺製粉が躍然として內地市場に角逐するに至りしより、遂に今日の好結果を贏取せしが夙に此事を聞ける朝鮮總督府勸業模範場は今回牧畜用として一應鐵嶺製粉ゝ皴を試用の上將來の買上げを爲さんとて其の日本及び價格表等の送付方を照會したるに同會にては此機會を利用し數の朝鮮輸出を圖るべく各道に於ける需用高及び關稅等の調査を兼て不日社員を派し具さに實査せしむる筈なりと云ふ皴は牧場用殊に乳牛用としては缺ぐ可からざる必須料品なりとの事なり

●宇佐川總裁歸京　東上中の宇佐川東拓總裁は二十八日午前八時二十分南大門着車にて歸京の筈

●榊原前參謀長の出發　二十七日午前九時南大門發にて赴任の途に上れり

●中村旅團長歸任　二十六日軍隊事務打合せの爲め來京せる平壤駐劄步兵第三旅團長中村興一氏は二十七日午前十時龍山發列車にて歸任の途に就けり

●安東丸の延航

大阪商船の定期船中安東、筑後川の二隻は目下朝鮮經由大連長崎間を就航しつゝあるが近時朝鮮米の鹿兒島方面へ輸入するもの增加せしより右二隻中何れかを鹿兒島へ延航すべしとの議論盛んなりしが來る一月七日大連入港豫定の安東丸は復航の途仁川より精米滿載の上長崎寄港更に鹿兒島向け臨時航行すべく決定せるが右實航成績の如何により茲數ヶ月の宿題は早晚解決せらるべしと云ふ

選擧界の形勢

民團議員の選擧形勢は本紙豫選投票毎日の得票數を見て優に解することを得べし

民團議員豫選投票

本日本紙締切迄の得票

二百五票	山口太兵衛
百八十三票	關繁太郎
百八十一票	高橋章之助
百七十八票	秋吉富太郎
百四十三票	城六一
百四十一票	原勝一
百三十票	和田常市
百二十七票	渡邊與三郎
百二十七票	森勝次
百二十四票	中村再造
百十票	田村義二郎
百八票	進辰馬
百五票	釘本藤次郎
百三票	兼古禮藏
百三票	松浦源治
九十三票	古城梅溪
九十一票	執行猪太郎
八十五票	梶原末太郎
七十八票	石井新
七十七票	中島司馬之介
七十五票	大村百藏
七十三票	大久保雅彥
七十票	曾我勉
六十九票	池田長兵衛
六十五票	石橋利三郎
六十五票	增田三穗
六十三票	阪敬明
六十三票	三好和三郎
五十一票	待井三郎
四十七票	深水清
四十五票	林田金次郎
四十票	渡邊五郎
四十票	田中始一郎
三十八票	近藤佐五郎
三十五票	松永達二郎
三十票	大村保太
二十六票	小林藤右衛門
二十六票	池田長次郎
二十二票	淵上貞介
二十一票	中島安邦
十七票	町田文次郎

（五票）佐々正之（同）林市藏（三票）阿川重郎（同）田端俊純（同）林田茂七郎（二票）唐川立造

注意

昨本紙に發表せし得點者にして點數の甚だ僅なる者は本日の表に加へず且つ本日の當票中にも現に民團議員となる能はざる要職に任る人々の名義を記したる者ありたるが右は發表するの必要なきを以て沒とす尙本紙は來る一月一日新年號を發する迄休刊するが投票は每日受附くべし

▲長野一郎（京城判事）　廿六日滋賀へ
▲原田鐵策（鎭南浦民長）　同鎭南浦へ
▲石井彌藏（憲兵中佐）　同大邱へ
▲三根昇（同少佐）　同

公人私人

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
十二月廿六日	三〇三、〇七一、五五	六五〇

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客　二十六日の分　乘車客　六六一　下車客　八〇五
▲南大門驛荷扱高　二十六日の分　發送　一、一三九、八九　到着　三三噸　七七九噸
▲龍山驛の乘降客　二十六日の分　乘車客　一九八　下車客　一九八
乘車賃金　一〇一、九二
▲龍山驛の荷扱高　二十六日の分　發送　五噸　到着　七五六噸
貨物賃金　九五、四七
貨物賃金　一、〇五八、四九

▲治外法權▼

何とか蚊とか云つてる中に光陰矢の如くで明治四十三年も餘すところ幾ばくかゝなつた、吾人半島移住民は過去一ヶ年間にドレ程の發展をしたか、思へばチントウ鐵に對して實に忸怩たらざるを得ない▲日韓合併が出來て半島は帝國の一部となつた、半島民は我同胞となつた、併し見渡すところ我移住民中眞に半島併合の意義を解して居る者は實に尠ない樣だ▲半島の開發、特に半島の富の開發之等は我移住民の責任であるのだ、而るに現狀はドウか、眞に事業上鮮人と提携し、眞に鮮人を相手に商賣をする者は兩夜の星の如しだ▲世人の或者は今年末を不景氣だと云ふ、成程ソレは其通りだ、併し今年末の不景氣は範圍の限られたる不景氣であるのだ見よ鮮人相手の商賣屋を、現に一私人の經營たる井手商會の如きですら鮮人に向かつて鹽鱈三十萬箱を賣ひて居るコンナ例を擧げれば幾らもあるが玆には煩を避けるが爲に書かぬ▲ト云ふ譯であるから之からの商賣相手は一千有餘万の朝鮮人だ、幾ら彼れ等が貧乏でも數でコナセば良いのだ、ハシタ月給取りの官吏などを得意にするよりはヨッポド增しだ▲此頃はドコにもココにも即決例と云ふ言葉がハヤル、曰く宴會の即決曰く歲暮贈答の即決、此即決例はた互にヤリトリするのはツマラヌからと云つて棒を引合のだ▲當地の某通信社は平常共產主義を實行して居るが此頃は社會主義を始めたソウだ、コンナ輩は其筋に於て嚴重に取締まるべしだ▲愈大晦日が近くなつた、借金とりは鬨の聲なんて濟ましては居られぬ古人が云つた通り十二月は吾人にとつて實にマゴ月だ、イヤハヤどうも此話にならぬ▲マゴツキと云へば平壤鑛業所長の武田海軍少將が往年妻君同道羅馬へ遊んだコトがあつた、少將は容貌秀麗一見大ハイカラの如しだ▲トコロがドウ云ふものか少將は頸つて赤印で妻君へ不便を掛けたことが夥しかつた▲時に在パリーの某惡友、少將の失敗を聞き、得たり賢こしとハガキを飛ばして曰くマゴ月は月の中でも罪がなし朝な夕なにコッキ廻さるよりはと▲本年の本紙は本號を以て終りとす、記者は愛讀者諸君と共に良き新年を迎へんと存ずる。

●謹告

例年の通り本紙は廿八日付を以て本年の終刊と致し候、併しながら休刊中重要事件出來候へば迅速號外を發し御報道可申上候也

京城新報社

＜相場電報＞

▲大阪株式（前日後場）（一月限）（當日前場）
三八、三〇　三八、五〇

▲京坂　同　▲電鐵　同　▲阪神　同　▲紡績　同　▲日本　同　▲郵船　同　▲東京　同　▲株新　同
六二、三〇　六二、三〇　一二一、三〇　一三一、三〇

▲大阪　同　▲株式　同　▲取引　同
一四二、三〇　一四一、五〇

▲大阪期米仁川米豆取引は納會

▲神戸電燈　引安

●孤浦の海軍射擊場　孤浦の海軍射擊場は洛東江に沿へる孤浦…重艦の射擊場新設の事は本年の議會に於て協定し豫算の範圍內に於て土地を買收し工事に着手し居りしも今回軍器進步の結果…の必要あり孤浦射擊場は洛…廢止と決し…も試射し得べきにもあらず鎭海灣方面に射擊場を新設する事となり且つ同灣は吳鎭守府よりも近距離なるため工事を急ぐの要あり…なりため更に別府第一…なかるべしも同場を廢止するに非ざれば早晚鎭海灣工事を相待ちて完成するの時機あるべしと云ふ

●敍位（九日付）
敍正五位勳五等　中村…
同　從五位勳五等　鈴木…
同　從六位勳六等　藤原正文
敍從六位　同　青木…
同　正七位　吉松憲郎
同上　同　中井喜太郎

●小西文之進氏卒去　…の子は二十七日郷里秋田に於て死去せられたり

石原鋭太郎
…高木…

相塲電報

▲大阪株式（十二月限）（前日後場）（當日前場） 三八〔五〕、三八、三 [illegible]
▲神戸電燈 引安
▲京阪同 ▲電燈同 ▲紡績同 ▲日本同 ▲郵船同 ▲東京同 ▲株新同 六二、三〇〇 六二、三〇〇 [illegible] 九八、〇三〇 一二一、一〇〇 一三一、三〇〇
▲大阪同 ▲株式同 ▲取引同 ▲大阪期米仁川米豆取引は納會 一四二、三〇〇 一四 [illegible]

●〔鎮〕浦の海軍射撃場 [illegible]〔鎮海〕灣に沿へ [illegible] 擴が [illegible] 射撃場新設の事は本年の議會に於て協定し豫算の範圍内に於て土地を買收し工事に着手 [illegible] しも今回軍器進歩 [illegible] め工事を急ぐの要あり從浦射撃場は [illegible] も試射し得べき [illegible] となりため更に別府灣方面に射撃場を新設する事となり且つ同灣は呉鎮守府よりも近距離なるに [illegible] 第なるも [illegible] すしも同場を廢止するに非ず [illegible] されば早晩鎮海灣工事を相待ちて完成するの時機あるべしと云ふ

●敍位 （九日付）
敍正 [illegible] 從五位勳五等 中村 [illegible]
敍 [illegible] 鈴木 [illegible]
敍從六位 從六位勳六等 藤原正文
敍正七位 正七位 青木 [illegible]三
同上 同 吉松憲郎
同上 中井喜太郎
敍 [illegible] 同 [illegible]
敍正 [illegible] 從七位 高木正 [illegible] 石塚 [illegible] 太郎

●小西文之進氏母堂死去 きた子は二十七日郷里秋田に於て死去せられたり

●寒休暇と兒童 某教育家の談

某教育家の談に依れば例年の經驗より見るも夏期休業後の欠席者よりも冬期休業後の欠席者多きを見るは皆正月中の暴食及運動の爲め戶外遊戲の不足等に原因すとて以て今冬期休業中には暴食を禁し成る可く相當の戶外運動若しくは室内運動を爲さしめ側ら復習を爲さしめられたし蓋し正月後に於ける一般兒童は身体を倦び居るのみならず頭腦幾分鈍み居るを以て此の正月殊に鮮鮮に於ては復習と戶外室内の運動とを日課として實行せられんことを各兒童の父兄に切望して止まざるものなりと云々

工兵大尉 中村良雄とか 堤多喜子

根野廣兒とか雄とか或は新橋上り堤多喜子とか優しさうな女名前も見へる、一際高く積み上げた五六のトランクには

陸軍少將榊原昇藏

閣下の名刺が見へて釜山と朱書してある。

美人五人に擁護

せられて釜山行の二等室に乘り込んだ紳士は何者だ、彼れには年の暮かないと見へる、が僕は彼れの眞意を知らぬ避寒か、逃寒か、それは敢て議する必要を認めぬ。

●教育會と朝鮮 帝國教育會

帝國教育會にては二十一日午後四時より朝鮮教育調査總會を開きたり出席者は辻男、中川謙二郎、佐々木吉三郎、小川平吉、三土忠造外數名にして三土、樋口の兩特別委員より委員會の結果報告あり異議なく原案通り可決更に明春評議員會に提出し決定の上桂首相、寺内總督に建白する筈也決定案左の如し

一、教育勅語の聖旨を普及し日本帝國と朝鮮半島との古來特殊にして親密なる關係を有すること幷に日本臣民たるの利益及び希望を十分に了解せしめむことを務むべし
二、日本語を普及することを當面の急務とし之れに全力を注ぐべし
　一、初等教育に於ては一切日本文の教科書を用ひ日本語を以て教授し諺文及び漢文は之を全廢すべし
　二、師範學校を增設し朝鮮人にして日本語に熟達せる多數の教員を養成すべし
　三、中等學校及び專門學校に於ては漢文及び外國語の外一切日本文の教科書を用ひ日本語を以て教授すべし
　四、私立學校又は私塾にして主として日本語を教授するものには相當の補助を與ふべし
　五、日本語の普及を目的とせる通俗讀物の類を編纂し廉價に販賣する方法を講ずべし
　六、一般朝鮮人をして日本語に習熟せしむる爲日本語を以て官用語とし公文はすべて日本文を用ふべし
三、教科書の編纂に重きを措き有力なる特別機關を設けて之れに從事せしむべし
四、一般朝鮮人の爲に日本臣民として必要なる德操を涵養し日常生活に必須なる知識を普及せしむるため相當の方法を講ずべし

正月に間に合はぬ

とて一人の醉漢、無切符のまゝ乘車せんとて驛員に遮られ、巡査と押問答の最中實兒と其妻と駈け付け來りて袖を引けども醉へる彼れは尙は狂ふて去らぬ。

失敗の苦痛

を嘗めて去らんとする一青年は其友に對して「あゝ半世の歷史今語るに忍びぬ、父母は老ひた歸つて百姓でも働かう」と友は「もう再び君は朝鮮に來ることはあるまい折角大事に春を迎へ玉へ」と別離轉た悲しき氣に見へた。

歲晚の構内は一種異樣の沈痛

午前九時六分、釜山行列車を送り、更に同十六分北行の列車を送つた、あゝ

空氣に滿ちて窓外の雨聲

なる、靜かに年を送るが如しであつた、茲に覆面子、覆面を脫して、歲晚忙裡の人となつて暫し諸君と共に香氣に笑つた筆を納める、僕も浮世の人だ、玆に御愛顧を受けた諸君に謝し併せて新春の新活動に對して、より以上の御愛顧を祈つて置く。

活動寫眞 覆面子

二十七日 朝の南大門驛

ゆき、みぞれ、あめ、と歲晚の天候は人間に向つて寓意あるものゝ如く、不景氣〳〵の聲は四邊を壓し、凍れる道を步む脚下が危險だ、雨を冒して驛に入れば年の瀨に追はるゝ人の氣も荒みて、暖炉を圍める顏も淋しい。驛員はこゝを先途とトランクや行李を調ぶるに忙はしい、中に度支部

白糸と電話と信さん

▽今は奧さんで有ながら白糸と云へば本年九月頃迄新町遊廓大門前で溫飩女郎と仇名を取つた顏るの淺腕持ちにて隨分た職の張り續けもやつた娼妓である此の妓が斯く職を張り續け身分不相當の浮名を唄はれ三面子の厄介に迄なつた理由はと云へば明治町東洋拓殖會社員鬼原信夫君と本町一丁目の某代書人と競爭的に白糸〳〵と愛せられたからである此の妓は普通なりせば本年八月を以て契約年期滿ちる筈なりしも病氣其の他で借增しが二百餘圓出來一ケ年の年期延期する事になつた然るに幸か不幸か某代書人は獨身で白糸に打込みて使ひ方が度を過ぎ不義理な事も出來もせんと惡意の人々が一層の事白糸を落籍し結婚爲すが得策なりと勸められし より九月中旬百七十圓にて落籍談も纏りぬ然るに白糸は某に落籍さるゝは好ましからず實は鬼原の方が眞正の戀人で某は金持つて來いの戀人なりしとかさりとて某代書人が白糸に遊興したる額は莫大なもの其の爲め某は或る問題迄惹起さんとせし位なりしかば白糸も情として斷る譯に行かず義理上として半ケ年なりと連れ添ふが人の道だと嫌々乍ら落籍されて代書人の奧さまとなり丸龍亭で事務員の者より奧さんと呼ばれるを極り惡るさうにして暮して居た迄は天下泰平なりしがどうせ泥水で固めた女の事とて浮氣するのは無理ならぬ事だが例の鬼原の許に某が不在には電話を掛け或は手紙を出して居るとかなるが某が此事知つたら問題が起らねばよいがと心配して居る者がある併し信さんが承知はしまいから安心な者さ

街頭の餅搗き

●南部署の注意

門松の飾りを強制する者は嚴重に處分す可きに付被害者は南部署に屆出づ可しさ

●材木商に保護願

御成町材木商刀掛貫一（三）は郷里奥市に於て相當の營業を爲し居りしが事業失敗の爲め妻子を遺棄し同地の藝妓綿貫ハツヱ（二三）を誘拐し本年七月當京城に來り材木商を開業夫婦然と暮し居りたるに綿貫の實父より保護取押方願出に依り南部署にて二十六日より保護中なりと

●魚と鷄との喧嘩

西大門內居住生魚行商人中井〔?〕（二〔?〕）鷄肉行商人三浦新一（三〇）の兩人は二十六日夜太平町一丁目永樂亭に於て遊興中商賣上の事より喧嘩を初め互に頭部に微傷を負ひ同家のランプ其の他器物を破壞せしより南部署に引致され說諭放還

●判決二件

奈良縣葛城郡忍佐村（原文ママ）築山常吉（三三）外本月九日永登浦監獄出獄後本月二十一日午後七時頃明治町觀商場吾鄕德次郎出品の卷煙草入二個を竊取南部署に捕はれし事は既報の如くなるが該事件は京城區裁判所に於て懲役一年に處せらる▲既報赤澤慶一田中丑松の傷害犯外一罪は懲役一ケ月に處せらる

目と耳

●歌舞伎座 春興行準備の爲め休演中なりし同座は今回初めて大坂鹽頭堀に於て八氣鉢篋運を以て組立てたる片岡島之助一座乘込み元日より早々花々敷く開演との事尙は一月一日初日藝題及び役割は

式三番「引抜た踊調相馬族擧」一幕來前狂言「菅原傳授手習鑑」五幕中幕「吉例壽曾我對面」石段之場、切狂言戀飛脚大和往來」上下

（片岡島之助）武部源藏、奴可內、曾我十郎治右衞門（嵐璃舛）宿彌太郎、右衞門、右衞門（市川玉五郎）舂藤玄蕃、工藤祐經、八壽、藤原時平、鬼玉庄司、娼アれかん、（實川賞若）判官代輝下男三助、女房は舍人松王丸、菅丞相、曾我五郎、忠兵衞舍人梅王丸、千歲丸、刈久姬、化粧坂少將（片岡嶋太郎）女房入重、園の方、よだれくり、女房千代、傾城舞鶴、遊女梅川（黑谷仲居れたつ（尾上松三郎）妻立田、女兵衞（實川正若）舍人杉王丸、肝入り由兵衞（實川賞若）、三吉清貫近江次郎 中村雁舛）、舍人櫻丸、女房戶浪、八幡三郎、土師兵衞、桃原平三、やり手市三郎）れくま片岡長十郎）

●浪花館 同館に於ては一月一日れ正月の氣晴しとして東京落語音曲手踊りある由なれば定めし面白く可笑しく又風變りの見ものならむ演物は彩芝居御祝儀曾我の石段（秋風亭米若）落語東の旅（三遊亭駒之助）落語選かん音曲手踊（昔々亭桃輔）落語狂言合音曲手踊（柳家一枝）落語於文樣手踊（柳家正好）記臆術（木村滑稽落語使者違指寫畫（司馬龍喬）落語小言幸兵衞手踊ステヽコ（三遊亭圓駒）落語芝居風呂（秋風亭米枝）速席御題話音曲手踊（連中總出）

●慈善活動寫眞開催 京城高等演藝館にては二十八日午後七時より慈善活動寫眞會を開催なし收入金全部を凍死者餓死者へ寄贈する由

●フンドー醬油の盛況 仁川港高杉醬油釀造所の同醬油は去る四十一年同地に於て釀造を開始せるものなるが常に品質の精選と同時に販路の擴張に腐心せし甲斐あり最早朝鮮內各地に於ける醸造醬油の橫綱たるに至り需要高の激增は僅に品質を證明し目下大擴張の計畫中なれば益々品質の改良を計りつゝありと云へば飲用者一般家庭の福音なりと云ふべし

▲平民文壇▼

▲去る二十一日裁判所前にて三面材料として供給受けたる辯護士の謝金云々

之事精探の結果維詐す可き點なし（三面氏）▲言中傷的に供給する者は反對に維詐なさい（小僧）▲本町九丁目郵便所の事務員は生意氣で不親切當局者の注意を求む（一人民）▲長谷川町の川村病院は仲々上手で親切だ（一患者）▲太平町一丁目太平湯の附近に出來た青雲軒とか云ふ理髮屋は淸潔 して上手（一賓試生）▲某署の新任刑事は隱險同職の事を中傷的に署長へ投書する杯甚だ不埒極て憤慨に堪ぬ（憤慨生）▲觀察道引上後の水原は商界不振に陷り各商店は隨分ミジメな有樣だが其中でも勉強家の評ある青木食料品店中島雜貨文具店山崎小間物店中川菓子店木野村洋反物店の如きは他店に卒先し大割引や景品付で歲暮の大賣出しを開始して居る水原地方の顧客が進物品を購求するには至極便利に出來て居る從て商業不振回復の補助ともなる各店も宜敷大に賑はすべしだ（水原視察者）▲市內で午後六時か七時頃より十二時迄業を成し相當の給料にて使つて下さる所は有りませんか有るならば當欄にて御教示下さい仕事は如何なる業にても嫌ひません（尋生）▲貴社に於ては新年第二日曜を期して歌留多競技大會御催しの由御發表に相成り欣喜措く能はず必ず出陣致す可く練習を重ね居り候が誠に待遠く御座候（無所屬派の旗頭）▲貴社が發表せられた豫選投票眞に機宜に適したものだ各者は此の意のある所を知つて今回の選擧は愼重にしたいものだ（京城一公民）▲京城〇〇局に出勤する杉原某とか藤原某とか云へるはチョンガ生活の不自由を兼見ね或人の周旋にて當地の或家に下女奉公せるれ何を迎へ近頃御成町邊りへ引越し來たりたるか某の妹にた何（十八）て龍山〇〇〇〇局に通勤するれ轉婆娘あり公德の何たるを辨へざる程のものとも見へざるに兼てより自家炊事用の汚物汚水を隣家の戶口先に投げ棄て他家の迷惑を見ざるさへ不都合なるに去る廿三日の朝も例の如く投げ捨てたる汚水が折惡しくも隣家の某に掛りたるを以て某も深く咎めざりしが若し自分が斯る目に逢ひしならば決して許す事は出來ず引出して手打ちとも致し呉るゝ奴なれども何は兎もあれ度量感ずるの外はないれ何たるの以後は充分注意すべし然らざれば龍山の

旅行中歲末年始欠禮す
京城鐘路通一丁目四番戶
辯護士 高橋章之助
電話 二五六

廣告

喪中に付歲末歲始欠禮仕候
吉岡定彦

廣告

上京中に付歲末歲始の禮を缺く
吉原三郎

廣告

來る明治四十四年一月四日より鐘路古市町間に左記電車停留所を設置致候に付謹告候也
鍾路 古市町間 電車停留所
鍾路、天一銀行前、黄金町通、韓國銀行前、南大門驛前、吉野町、古市町分岐點外、建築所前、米倉町通、南大門內、南大門
追而右區間は停留所以外に於ては停車不致候に付御承知相願度候
明治四十三年十二月
日韓瓦斯電氣株式會社

隨意入院
京城西小門通六番戶
菅醫院
電話 一三一五番

移轉と開業

當所は太平町南大門北入右側新築落成

新築落成の爲め左記の個所へ移轉の上從來の質業の外不動產信託業兼營仕候條倍舊御引立被成下度希上候

京城太平町南大門北入右側横
多田不動產信託所
所主 多田次平

多田不動産 信託所

京城太平町一丁目南大門北入右側 電話二二一番

◎信託要項
△不動產放資金の運用信託
△土地建物鑑定調查測量
△貸地貸家田畑管理信託
△地料家賃小作料保證監督
△貸地貸家小作地無料案內
△土地家屋田畑賣買典當
△山林荒地鑛山賣買典當
△家屋月賦建築受託
△動產火災保險取扱

當所有市街宅地南大門外中央約四千坪破格貸地あり

▲放資信託 低利抵當貸金信託あり尙確實な擔保物件の申込あり
◎賣買信託 土地家屋田畑買入希望者あり又同賣物の依賴あり
◎小口質物 秘密御預り可申土藏附新築所有家屋にて保管完全

質店は太平町南大門北入右側新築落成

梅毒新藥

エールリツヒ、秦兩氏發見
梅毒新藥サルバルサン（六〇六號）只一筒の注射に由り積年の痼疾を一掃全治す例令根治に至らずとするも五ケ年毎に一筒を注射すれば恐るべき病苦より免れ得べしとは全世界の學者博士等に由り認めらるゝに至れり
貧者無資力者等にも普及救濟の主旨に由り注射料金低減を實行す
原品は一月中旬到着の筈なれども一時に多數病者の希望を滿たし難きに由り此際至急申込まれ度其申込順に由り施術す

花柳病痔疾專門
桝生町南門湯横
京城梅毒病院
（電話一二九四）

年の餅廣告

上等餅 一斗に付 金二圓五十錢

弊店は大賣出し等の方法に依らず事實の勉強を致し原料精選入念調進致し升れば年中餅搗き休みなしの餅屋に御用命あらんことを願ひ升

東京流祝餅
祝丼飾菓子
製造舖 京城本町二丁目郵便局前
大和軒
電話 四八九番

晦日

大勉强仕候

そば

京城本町六丁目
藪ろば
電話 八四七番

京城南山町四丁目
藪ろば支店
電話 九〇二番

長崎流

（〇しるこ）
（〇茶碗むし）
（〇むし壽し）
（出前も御好み應じ可申候）
南山町二丁目（南山渦上降）

松ぞの

（電話 一一八五番）

實母きた子 於郷里秋田本日病死
喪中に付歲末年首缺禮仕候
明治四十三年十二月廿七日
男 小西文之進
同 小西勇

民團議員 豫選投票用紙

京城新報社